

『フィジカルアセスメントガイドブック 第2版 目と耳でここまでわかる』 日本における フィジカルアセスメントの スタンダードとして

著：山内豊明／定価 2,520 円(本体 2,400 円＋税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



フィジカルアセスメントは、1990年代後半にアメリカから日本に入り、普及してきた知識と技術といえます。私もこの時期にアメリカへ研修に行く機会を得て、その後、学生たちにフィジカルアセスメントを教えるようになりました。ところが、何年かやっているうちに、アメリカでのフィジカルアセスメントの知識・技術の枠組みでは、日本の臨床現場や看護基礎教育にフィットせず、学生たちに身に付いていない印象を受けました。そして、それはアメリカと日本で、看護師に求められるアセスメント能力の質の差があるためではないかと思いました。

アメリカでは、ナース・プラクティショナーが、患者の全身状態を系統的にアセスメントし、スクリーニングするためにフィジカルアセスメント能力が求められています。一方、日本の看護師は、病院あるいは在宅看護のなかで、その患者の年齢や生活環境、既往歴を踏まえて、症状や徴候などの少しのサインから病状の緊急性や疾患を見抜き、早急に必要処置・ケアにつなげる能力が求められているように思います。つまり、日本の医療・看護の場面では、「幅広く・浅い」フィジカルアセスメント能力ではなく、「厳選して・深く」アセスメントする能力が必要なのです。

前置きが長くなりましたが、本書では、まさに臨床現場や在宅の場でよく見受けられる症状や

徴候、身体機能別のフィジカルアセスメントが厳選され、その判断に必要な知識と技術が、細やかに深く紹介されています。患者の訴え、症状・徴候から推測される身体状態や疾患について、病態生理からの根拠や理由づけが明確で、わかりやすく、しかも看護師が行うアセスメントの範囲において述べられております。そこはさすが医師の資格と看護師の資格の両方をもつ山内豊明先生だからできることだと思います。

今回の第2版では、アセスメントの思考過程を重視して整理されており、初学者である看護学生にも、理解しやすい構成になっていると思います。その構成は、【アセスメントの目的】【HOW?】【CHECK】から始まり、その合間に【MEMO】【PLUSONE】など、関連する知識やちょっとしたアセスメントのノウハウが紹介されています。それらは、私が10年間のフィジカルアセスメントの教育のなかで「ここがポイント!」「この知識があるとより理解しやすい」と思っていた事柄であり、ここも「さすが!」と思ってしまいます。

このような点からみて、本書は、日本のフィジカルアセスメントのスタンダードといっても過言ではありません。臨床看護師のみならず、看護基礎教育に携わる方にもお勧めできると考えます。